

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

季刊 みる・きく・ふれる 文化財

おうみ文化財通信

vol. 43

Information of Cultural Heritage in OHMI

2020 Spring

【調査速報】

古墳時代の工房跡を発見!! - 栗東市辻遺跡 -

【資料紹介】

『淡海温故録（おうみおんころく）』 滋賀県立琵琶湖文化館収蔵品より

【開催報告】

第2回歴史文化遺産ガイド育成講座

【展示案内】

「信長と光秀の時代—戦国近江から天下統一へ—」

【お知らせ】

「公益財団法人滋賀県文化財保護協会 設立から満50年！」

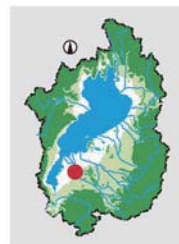


しじみちゃん

【調査速報】

こふんじだい こうぼうあと はっけん 古墳時代の工房跡を発見!!

りっとうし つじいせき
— 栗東市 辻遺跡 — 一般国道8号野洲栗東バイパス建設に伴う発掘調査



ガラス小玉の鋳型が出土した竪穴建物跡

(写真：滋賀県教育委員会 提供)

辻遺跡は栗東市出庭^{でび}を中心に広がる、古墳時代の大集落跡として知られています。これまでの調査では玉作りなどの手工業生産をおこなった工房跡をはじめとして多数の遺構がみついています。また、朝鮮半島の土器にみられる技法で作られた韓式系土器^{かんしきいどき}も出土しており、渡来人^{とらいじん}と関係が深い遺跡であることもわかっています。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県教育委員会および国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所の依頼により、発掘調査を平成30年度から実施しています。

今回の調査では、古墳時代前期から中期（約1,700年～1,600年前）の竪穴建物跡が約30棟見つかりました。なかでも古墳時代中期（5世紀前半）の竪穴建物群は、先進技術を持った渡来人の工房群であったことがわかりました。

【詳しくは次のページ】

栗東市 辻遺跡 — 大発見!! 県内初のガラス小玉鋳型 —

◆5世紀前半の竪穴建物の特徴

5世紀前半の竪穴建物跡は、12棟みつかっています。いずれも一辺が約4.5m、床面積が約20㎡の規模を測る平面形が方形をした竪穴建物です。床面には熱を受けて赤く変色した円形の被熱痕が確認でき、壁沿いには床面を掘りくぼめた貯蔵穴を備えていました。

◆竪穴建物跡から出土した遺物

竪穴建物からは、鉄製品やフイゴ（送風機）の羽口（鉄を溶かす炉に風を送る管）、鍛冶滓（鉄を溶かしたときにできるカス）・熱を受けた平らな石（鉄製品を作るときの作業台）や砥石・鍛造剥片（鉄をたたいた時に飛び散る細かなカス）が出土しました。また、県内で初めての出土事例となるガラス小玉鋳型が出土する建物跡もありました。

これらの出土遺物は竪穴建物が住むだけの場所ではなく、鉄製品やガラス小玉の生産を行う場であったことを示すものです。鉄製品やガラス小玉の生産は渡来人が日本に伝えた技術です。韓式系土器が出土することからも、これらの竪穴建物は渡来人が関係している工房だったとみられます。

◆今回の発見で明らかになったこと

古墳時代の日本列島は朝鮮半島と交流があり、渡来人の先進技術を取り入れながら発展していきました。当時のヤマト王権の中心であった大和・河内は、王権の管理のもとに渡来人が積極的に採用され、鉄器生産や玉類の生産を専門的に行う工房が多数営まれる先進的な地域でした。

規模の違いはありますが、今回の調査により大和・河内と同じく手工業生産の工房群が営まれていたことが分かり、古墳時代において栗東市域が先進地域であったことが改めて明らかとなりました。このことは、古墳時代の地域の様子や、地域の開発と渡来人の関わりなどを知る上での重要な資料となります。



調査地の様子



韓式系土器



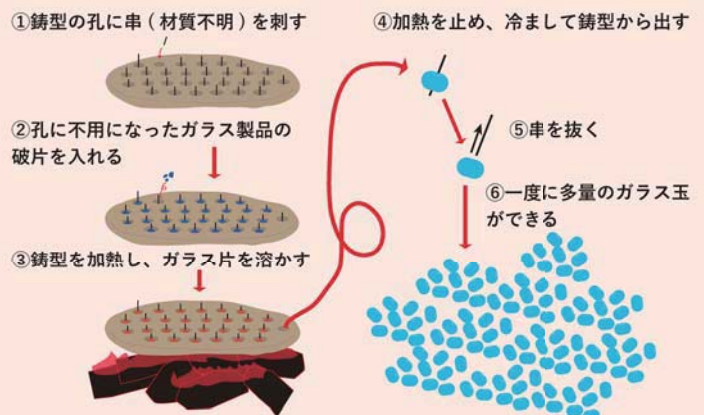
鍛冶滓

(写真：滋賀県教育委員会 提供)



ガラス小玉鋳型

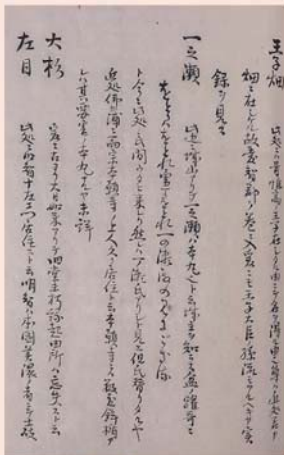
ガラス小玉鋳型の使い方



『淡海温故録（おうみおんころく）』



淡海温故録（琵琶湖文化館本）4巻8冊 滋賀県立琵琶湖文化館蔵



淡海温故録（部分）



あきつ君

本能寺の変で織田信長を討った明智光秀は、美濃国（今の岐阜県）出身であるというのが通説でした。ところが近年、近江国いぬかみくに犬上郡さめ佐目（今の滋賀県多賀町佐目）の生まれであるという説が掘り起こされ、注目を集めています。この「光秀多賀出身説」を早くに記していたのが、『淡海温故録』という書物です。

『淡海温故録』は、江戸時代前期の貞享年間（1684～88）にまとめられた近江国の地誌です。著者は、内容がよく似ている『江侍聞伝録』ごうじもんでんろく（寛文12（1672）年成立）と同じ、木村重要と考えられています。『温故録』は、近江国内の郡別あるいは村別といった地誌の体裁をとりながら、主に中世の土豪・地頭の家系に関することを記しています。とりわけ、六角氏と関係の深い武将についての記述は詳しく、信頼性の高いものであると評価されています。

写本は11本ありますが、その内の1本にある前書きから、はじめ彦根藩主の井伊公へ献上されたものであることもわかっています。『温故録』に記された事柄は、のちに『近江輿地志略』おうみよちしりやく（享保19（1734）年成立）や『淡海木間攷』かんせい（寛政4（1792）年成立）といった、近江の近世地誌を代表する書物の中にも受け継がれていきます。

琵琶湖文化館では、『淡海温故録』の幕末期の良質な写本を所蔵しています。展覧会出陳の際には、是非ご覧ください。

◆滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL . 077-522-8179 FAX. 077-522-9634

E-mail : biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
URL : http://www.biwakobunkakan.jp/

【開催報告】

第2回 歴史文化遺産ガイド育成講座

令和2年1月8日（水）から第2回の育成講座が始まりました。滋賀県の歴史文化遺産を活用するための人材を、育成していくことを目的とした事業です。

本講座は座学と現地研修で構成し、初級・中級・上級の3段階からなっています。いずれの講座も学習向上意欲を刺激する内容となっており、受講されたほとんどの方が次の級へ進まれています。

実際に講座に参加されている方からは、「講座内容がわかりやすい」・「基本的なことが理解できて良かった」・「現地研修では、新しい視点でものが見ることができた」といった声を多数いただきました。



協会ホームページの掲載情報

- 『紀要』第33号の刊行案内・・・考古学や文化財の多様な課題に取り組んだ最新の成果を掲載しています。
- 発掘調査現地説明会資料・・・今回掲載した辻遺跡などの資料がダウンロードできます。



【展示案内】滋賀県立安土城考古博物館 令和2年度春季特別展

「信長と光秀の時代－戦国近江から天下統一へ－」

天下統一を進める織田信長と、それを支える明智光秀が活躍した時代は、どんな時代だったのでしょうか。戦国大名どうしの戦い、団結する民衆、ヨーロッパ世界との出会いなど、大きな変化が求められたこの時代の様相を、絵画資料・文献資料・絵図などから紹介します。



重要文化財 近江名所図 右隻（滋賀県立近代美術館蔵）

【開催期間】令和2年4月25日（土）～6月7日（日）

【開館時間】9：00～17：00（入館は16：30まで）

【休館日】5月7日（火）・11日（月）・18日（月）・25日（月）、6月1日（月）

【入館料】大人900(690)円、高大生640(470)円、小中学生420(310)円・県内高齢者460(350)円

※（ ）は20人以上の団体料金です。 ※「信長の館」との共通券もあります。



博物館ホームページ



まめのぶくん

※新型コロナウイルス感染症拡大する状況の中、博物館の開館時間、展示の開催について変更される場合がございますので、お出かけの際はホームページ等でご確認ください。

滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678
TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140
URL : <http://www.azuchi-museum.or.jp/>

【お知らせ】

公益財団法人滋賀県文化財保護協会 設立から満50年！

当協会は、令和2年4月に設立50周年を迎えます。これまで県内の埋蔵文化財の調査および研究、その成果に基づく普及啓発、文化施設の管理運営を積極的に行うことで、本県の文化の向上に寄与してきました。さらに、昨今求められている文化財の活用を通じた「地域づくり・人づくり」にも取り組んでいます。

令和2年度を中心に以下の記念事業を予定しています。詳細については次号以降でご紹介していきますので、ぜひご注目ください。

●記念報告会の開催

当協会が50年間に実施した発掘調査のうち、学史に残る調査や注目を浴びた調査について、調査担当者が当時の調査状況やその後の評価について解説します。

開催日：令和2年9月20日（日）

●記念展覧会の開催

当協会が実施した縄文時代から弥生時代の遺跡や出土した遺物を中心に紹介し、東西文化のはざまに位置する近江の特質を浮かび上がらせます。

期間：令和2年10月10日（土）～11月23日（月・祝）

場所：滋賀県立安土城考古博物館

テーマ：秋季特別展「近江の黎明－縄文から弥生へ－」（仮）

●印刷物の刊行

①紀要特別号の発行…当協会職員の調査や研究の成果を広く紹介します。

②記念誌の発行…当協会50年の主な事業を振り返り、その軌跡をたどります。



私たちは文化財をととして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
設立50周年を迎えます

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2
TEL. 077-548-9780 FAX. 077-548-1525
E-mail : mail@shiga-bunkazai.jp



協会ホームページ